

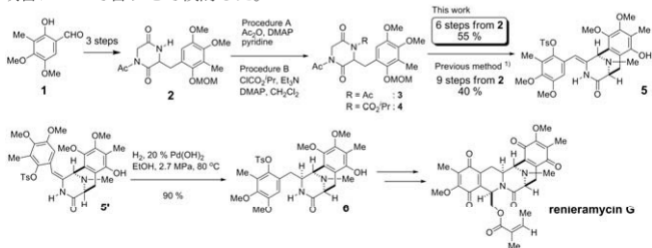
# 30P1-pm002

レニエラマイシン Gの改良合成：工程数の短縮

横屋 正志<sup>1</sup>, ○高田 裕樹<sup>1</sup>, 三村 裕裕<sup>1</sup>, 齋藤 直樹<sup>1</sup> (<sup>1</sup>明治薬大)

【目的】最近、我々は抗腫瘍活性微量海洋天然物であるレニエラマイシン G の全合成に成功した。<sup>1)</sup> 今回、ラクタム窒素保護基を変更して合成経路の短縮による収率改善について検討した。

【結果・考察】既報<sup>1)</sup>では、1 から 3 工程で 2 を合成し、続く 2 から 3 への変換 (方法 A) ののち 6 工程で 5 を合成した。今回は、2 からカルバメート 4 (方法 B) を経て 5 に変換することで 3 工程の短縮が可能となり、総収率を 40 % から 55 % に向上することができた。なお、5 と共に得られる幾何異性体 5' の高压接触還元では、5 の場合と同様に 6 が得られたことから、5 を精製せず 6 へ変換することによる収率の改善について合わせて検討した。



1) Yokoya M., Shinada-Fujino K., Saito N., *Tetrahedron Lett.*, **52**, 2446-2449 (2011).